

順位	氏名（議席）	発言の要旨
13	鈴木 幸司（16）	<p>1. 富士市ゼロカーボン戦略2050について</p> <p>2050年にカーボンニュートラルを達成することを目標に策定された富士市ゼロカーボン戦略2050は、20年逆算して、2030年にCO₂削減47%を掲げた意欲的なものである。</p> <p>脱炭素に向けて、諸施策を推進する本市であるが、昨年12月3日に、市内の大型バイオマス発電所が負債総額約535億円を抱え運用を停止した。これが同戦略にどのような影響があるかを含め、現在での同戦略の進捗状況等を順に質問し、2030年目標達成へのシナリオを伺う。</p> <p>(1) 再生可能エネルギー発電の導入ロードマップの進捗状況は。</p> <p>(2) 省エネルギー推進ロードマップの進捗状況は。</p> <p>(3) 改正建築物省エネ法においては、市町村が地域の実情に応じて、太陽光発電等の再エネ設備の設置を促進する区域を設定できるとされているが、本市においてはどのように進めるのか。</p> <p>2. 砂山公園プール（富士マリンプール）の今後について</p> <p>本年2月の総務市民委員会協議会において、砂山公園プールにおけるコンセッション方式の導入を再検討する方針が明らかにされた。</p> <p>まず、本事業は市ができるだけ支出を抑えての10年程度のプール存続が目的であるため、予定額を大幅に上回る初期投資や指定管理料を支出しての運営は考えないとし、その上で、上限として設定した2億5000万円に多少の追加工事を加えた程度ならば増額を検討し再募集する、事業者の参加が見込めない場合は、本事業を中止し、廃止を含めた施設の在り方を検討することである。</p> <p>本年度の指定管理者（富士市振興公社）の決算見込みでは、人件費の高騰等が赤字の原因であり、入場料等の値上げをしないと黒字化は困難だという。</p> <p>今後のマリンプール存続の方策を探るべく、以下のように質問する。</p> <p>(1) 2024年7月の全員協議会では、そもそも数で稼ぐという考え方はしておらず、9か月間の閉鎖期間にも他のサービスを展開することで利益を上げられるとの説明だった。本事業への参加が見込まれていた事業グループ等へのヒアリングをコンサルタント事業者が実施したとのことだが、プール閉鎖期間中のサービスについてはどんな提案があったのか。</p> <p>(2) 同様に、事前のサウンディング調査ではどのような提案があったのか。</p> <p>(3) 予定額を大幅に上回る初期投資や指定管理料を支出しての運営は考えないとのことだが、例えば、水道料金の減免などは考えられないか。</p>